



ロータリー:
変化をもたらす

例会プログラム

点鐘 会長 川尻 達也
国歌斉唱 『君が代』
ロータリーソング 『奉仕の理想』
四つのテスト唱和
ゲスト並びにビジター紹介
*山梨学生 ヤスンジャン アシムさん
会長挨拶並びに報告
幹事報告
出席報告・ニコニコBOX報告
本日のプログラム
会員卓話『中国の話』 坂田会員
会員卓話『今まで』 笹川会員

出席報告

会員数	32名
本日の出席者	22名
メイクアップ済	2名
本日の出席率	92.31%
5/22修正出席率	96.00%
(メイクアップ 9名)	

ニコニコBOX

◆川尻会長

山崎さん 本日よりよろしくお願ひします。
坂田さん、笹川さん 卓話よろしくお願ひします。
結婚記念日祝いを頂きました。

◆石井幹事

山崎さん 本日より通常例会ですね。
これからよろしくお願ひします。
ヤスンジャンさんようこそ。坂田さん、笹川さん本日卓話よろしくお願ひします。

◆東会員

坂田さん、笹川さん 卓話楽しみにしています。

◆藤井会員

山崎さん、入会おめでとうございます。
これからよろしくお願ひします。

◆岡崎会員

誕生日祝いを頂きました。

◆小神会員

妻の誕生日祝いを頂きました。

◆坂田会員

妻の誕生日祝いを頂きました。

◆土佐会員

妻の誕生日祝いを頂きました。

◆山口会員

本日の卓話 坂田さん、笹川さんよろしく。
東さん今日ゴルフ同伴して頂いてありがとうございます。

◆吉田会員

山崎智之さん 射水RCへようこそ。
一緒に楽しみましょう!

第1769回例会 2018年6月5日(火) 場所:うもれぎ亭

【会長挨拶並びに報告】



【幹事報告】

配布物: ガバナー月信6月号、次回例会出欠票
回覧物: IM報告書、前回週報

- 6/11(月)あじさい祭りの準備があります。参加できる方は10:45までにうもれぎ亭まできてください。
- 6/2(土)南砺RC50周年記念式典に行ってきました。



●6月1日に入会した山崎さんに会員バッジを贈呈しました。



●ヤスンジャンさんに奨学金を渡しました。

【6月誕生日 & 6月結婚記念日】

- ★ 6月3日 江守 正さん(誕生日)
- ★ 6月5日 沖 多門さん(誕生日)
- ★ 6月8日 島田 重紀さん(誕生日)
- ★ 6月18日 岡崎 美千代さん(誕生日)
- ★ 6月30日 夏野 公秀さん(誕生日)
- ★ 6月8日 藤井 和博さんご夫妻(結婚記念日)
- ★ 6月11日 川尻 達也さんご夫妻(結婚記念日)



【本日のプログラム】

会員卓話『中国の話』 坂田会員



会員卓話『今まで』 笹川会員

私は生まれた時からこの富山県射水市(旧射水郡小杉町大江)[いいとこ]に育ち、小さい時から造ることが好きなおしとやかな子どもでした。私の親父は初代大工の棟梁で昔から頑固、

頑固、頑固一徹なおやじです。その環境の中で育ったせいか私は本当に気の小さい男に育ちました。今でも気は小さいままです。

私は小学校のころから、何でも作る事、分解すること、改造することが好きでした。夏休みの工作でも、友達が作らないような人力ゴーカートや木でつくる船(モーター付き)。自分の自転車は当時はやっていたジョン&パンチという白バイの映画が好きで、その乗っている白バイのまねをして、右手のハンドルグリップにはバイクのエンジン音、後側面サイドには違う自転車から取り外したカゴを取り付け、後ろの真ん中にはラジオからとったアンテナを取り付け、いつもジョン&パンチ気分で乗り回していました。あと大工の真似事として今は無き大江小学校グラウンドの木の上に友達と基地を作って遊んでいました。そんな昔のことが鮮明に思い出されるのもその時は心から楽しいと思っていたからでしょう。そんな小学生でした。

そして小杉中学校へ入り、一番厳しいとされている柔道部へ入ってしまいました。柔道とはなにかも知らず、友達の誘いで何気なく入ってしまったのです(全国レベルの小杉中学校)。それはそれは地獄のような特訓。練習中に水を一滴すら飲ませてもらえず、つらい練習の日々でした。(3年生になればトイレの水は飲めましたが)毎日毎日、汗まみれになりながら一日で3kgは汗をかいていました。厳しい先生、厳しい先輩の中で得たものは鍛え上げられたから身体と根性でした。本当につらかった。そして3年の途中で部活動も終わり、休みには友達と遊びに行くことを普通に考えていました。ところが学校が休みになれば必ず現場へ連れていかれるようになりました。(朝早くから叩き起こされ、現場へ行くトラックの座席の真ん中に乗せられ、右手におにぎり、左手には目玉焼きを持たされ、いやいや現場に行っていました)友達と遊んだ記憶がありません。そういうことがあってか、私は、大工という仕事が好きではなかったように思えます。むしろなりたくなかったのが本音です。ここまでして仕事をしなければいけないのかとつくづく思っていました。高校も県立に行けないのなら行かずに働け！ とまで言われましたが、高校では遊びたかったのが本音。3年間行かせていただきました。楽しかったです。ありがとうございます。

その後、専門学校まで行かせてもらい、建築の勉強をさせていただきました。2年間でしたのでその後どこへ就職しようかと親父に相談したとこと、「もう決めてある！」と親方の元へ。その親方が親父よりもっともっと頑固。木選から墨付け、手刻みが当たり前。しかも立てる住宅殆どが化粧材(木はだが仕上がり)ばかり。非常に厳しい、つらい、きつい、行きたくない、の連日でした。なかでもつらかったのが、真冬の刀研ぎでした。冷たくて冷たくて、手の感覚が全くなく、でも研がなければ柱は削れない！ その連続でした。そして家族の愛情だと思っています。そして厳しい、つらいを日々何気なく体感しながら仕事をしていると、ある言葉がきかっけで嬉しくて楽しくて仕事が好きになりました。それはある時お客様に「かつ、なんちゅうおくすい仕事すんがいね。わしの気に食うたがなつたわ！ ありがとう」と言われた時でした。自分のやったことのお客様がこんなに喜んでいただける、こんなに笑顔になってくれるなんて、大工ってやりがいがあるなあと思いはじめた。と思いました。今まで辛かったこと、嫌なことが一気に風へと飛んだ感じでした。

それからは気持ち切り替わり、どうやればきれいに仕上がるか、どうすれば良い収まりになるか、どうすれば早くできるかを親方の手さばき、収まり、動きを盗み(見て覚える)ながら考えるようになり、日々試行錯誤の毎日でした。また、そこで気づいたのが、どんなにきれいな仕事をして、どんなに良い収まり方をしてもどんなに早く納めてもお客様との一体感が大切で、お客様の為になっているか、お客様の立場でつくれているのか、その時からすべてが【気持ち(心)】で仕事をするようになりました。

そして5年と2ヶ月の丁稚奉公を終え、25歳で我が親父の元へ。わが社の仕事内容も墨付け、手刻みを当たり前に行っていました。が、時代の流れで手刻み仕事から機械化になり、プレカット(全て機械で長さを切ったり、穴を掘ったり、仕掛けを作ったりすること)が流行りになって手刻みの仕事が少なくなってきました。※なぜ機械プレカットが流行ったか？《手刻みより早く施工ができ、早く汲み上げれる、値段が安い》この状況が一気に広がり、笹川建築はハウスメーカーの下請けも受けざるを得なくなりました。毎日、朝8時前には現場について仕事をし、夜はいつも20時くらいまで仕事をするのが当たり前でした。

「これではお客様の為にはならない、お客様は一生のお買いものをしているのに、作り手側がこんなことではいけない！ ましてや自分が一生懸命親方の下で仕事を盗んで覚えてきた技術は全く意味がない。ここで一度原点に戻ってみよう。」と思い、下請けを全て辞めさせていただきました。

その当時、親父(大工)、妹(設計)、弟(大工)、義理の弟(総務)、若い衆(二人)、そして自分。

しかし、時代はハウスメーカー。親父の信頼で仕事はありましたが、どうすれば次の仕事が取れるか？ 考えて考えて土曜日も日曜日も試行錯誤。昼は仕事、夜は行った事のない営業、休みの時は出たことのないイベント、ゴールデンウィークもイベント三昧。大工職人がしたことのない事までやらざるを得ませんでした。そうした毎日を凄し、給料も10万円すらならない時も多くあり、当時結婚して子どもがいるのにお金もない。本当に、頭を抱える毎日が続きました。

しかし、真面目にやっていると神様は見てくれていました。いままでのお客様(リピーター)にまた仕事を頂くようになり、そのお客様のお友達を紹介してくれるようになり、お客様の幅も広がって行ってくれました。本当にあの時に行動を起こしてよかったなあと思っています。ありがたく仕事をさせて頂いております。

